

東研サーモ

タイで熱処理新棟

車部品の
需要増対応
加工能力10%向上

東研サーモテック（大阪市東住吉区、川寄修社長、06・6714・2425）は、タイ生産子会社「タイトーケンサーモ」（チョンブリ県）の北工場（同）に新棟を建設し、2013年3月までに稼働させる。自動車

の一大生産エリアである東南アジアで、拡大する自動車部品の熱処理需要増に対応するが狙い。新棟稼働で同子会社の熱処理加工能力を、現状比で約10%強高める計画だ。投資額は数億円。

北工場に隣接する約3000平方メートルの敷地を購入し、延べ床面積約3000平方メートルの建屋の建設に取り掛かっている。タイに進出する日系自動車部品メーカーは、11年秋に発生した大洪水の影響を受けたものの、現在は多くが増産に向けた動きを強める。自動車部品の熱処理工程を担う同社への要請も増え、真空炉や連続炉などを増強し、受注増に対応する。タイ子会社の生産能力は逼迫気味だったため、余裕を持った生産体制構築の狙いもある。



日系の自動車や建設機械、農業機械メーカーなどの部品の現地調達拡大

に連動し、各部品メーカーも現地生産を加速している。部品メーカーにとって熱処理設備の初期投資と、設備の維持・管理負担は大きい。このため、従来は内製化していた熱処理工程を海外では外部委託（アウトソーシング）が進んでいる。東研サーモテックは熱処理専門大手で、タイだけでなく、11年に進出した中国でも第2工場の新設を計画するなど、海外事業を拡大している。

▲タイ生産子会社「タイトーケンサーモ」の北工場

日刊工業新聞
2012年(平成24年)4月13日付

日刊工業新聞社からの転載許可に基づいて掲載
本記事への著作権は日刊工業新聞社に帰属します
記事への改編、他への転載は一切禁止致します